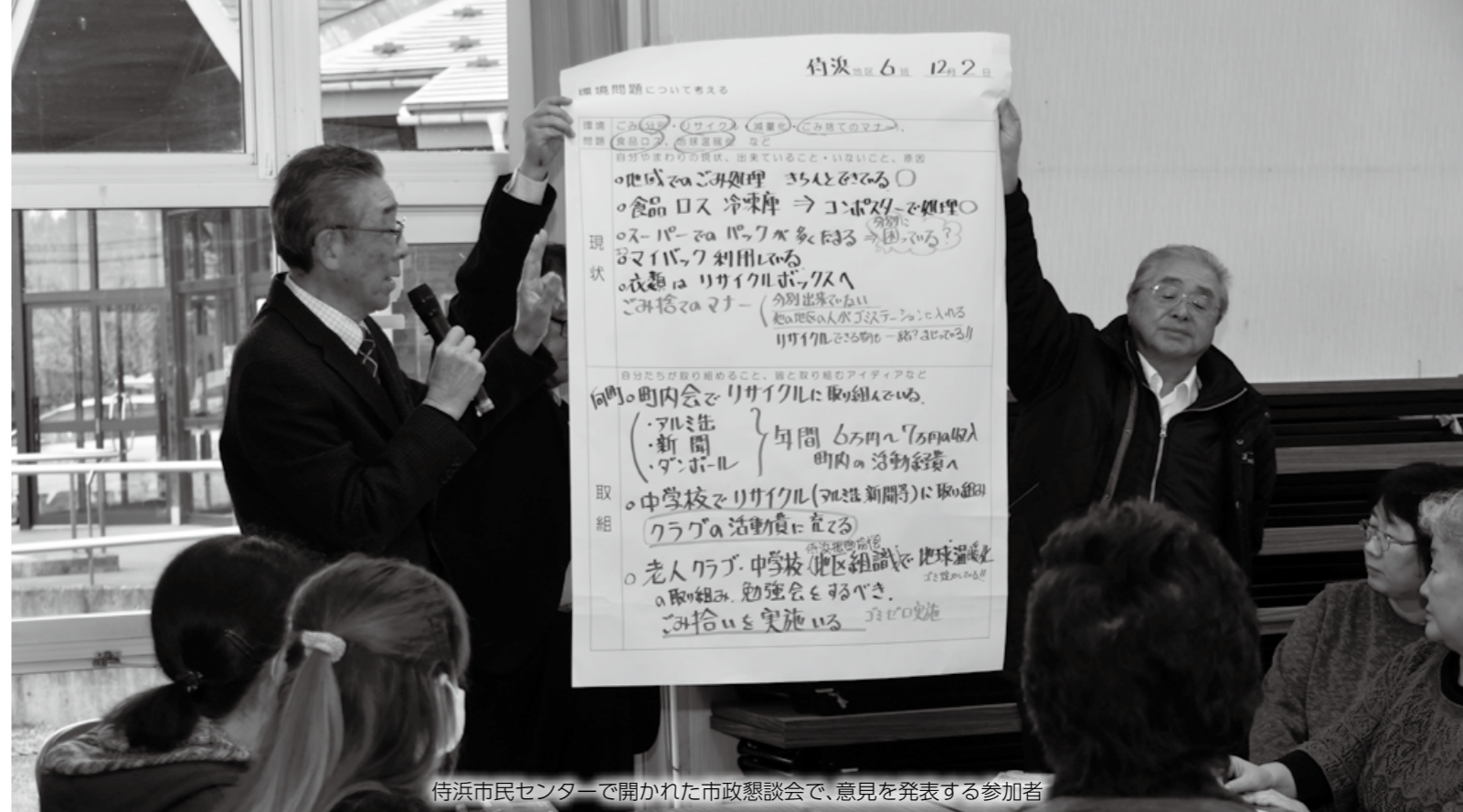
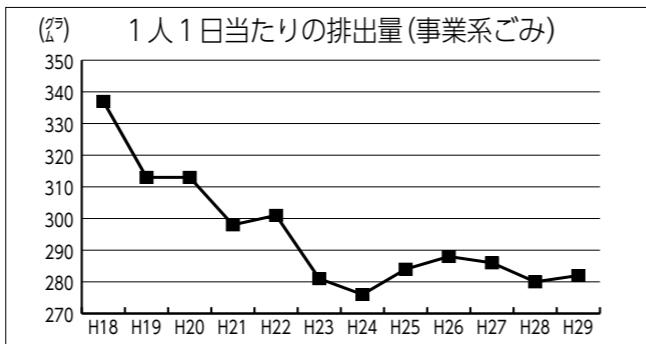
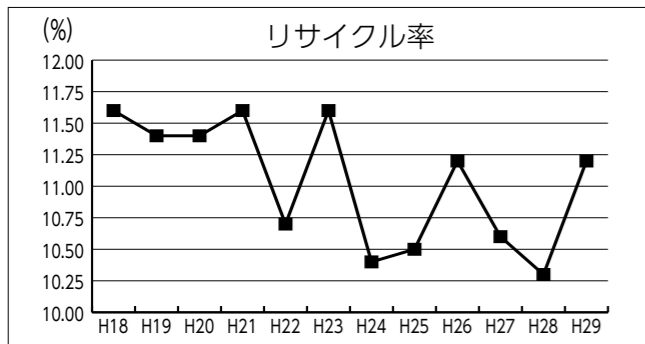
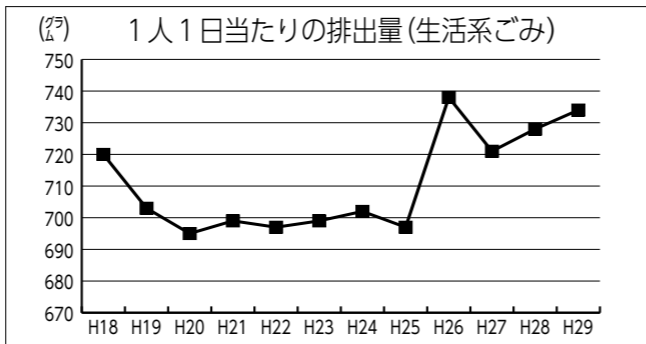
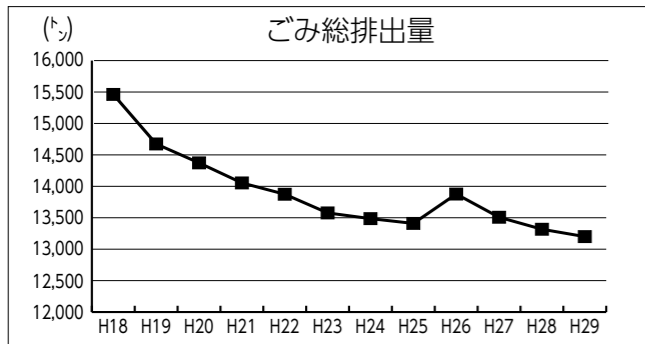


久慈市のごみ排出量 各種数値  
(出典：環境省一般廃棄物処理実態調査結果)



待浜市民センターで開かれた市政懇談会で、意見を發表する参加者

## 家庭での一手間が

### ごみの減量化に

#### 増加傾向の生活系ごみ

地球温暖化と同様に、多くの対策が必要となっているのがごみ問題です。市の平成29年度のごみ処理負担金は約3億円。市民1人当たりになると、年間約8500円のごみ処理費用がかかっていることとなります。

左ページのグラフの通り、平成29年度のごみの総排出量は約1万3000ト。人口減少などにより、減少傾向にあります。1人1日当たりの排出量をみると、工場や事業所などから出る事業系ごみは減少傾向にありますが、家庭から出る生活系ごみは増加傾向にあります。市のごみの7割以上は生活系ごみであり、各家庭での減量化が必要です。

#### 環境問題を話し合う

11月から12月にかけて開催した市政懇談会では、環境問題をテーマにワークショップを実施。参加者からは、マイ

バックやスーパーの回収ボックスの活用、コンポスターの利用など、ごみの減量化に向けた意見が発表されました。

#### 生ごみの減量・堆肥化

生ごみの80%は水分といわれており、水を切ることでよって減量することが可能です。市全体で取り組むことにより、年間約340トが減量。焼却炉での燃料の削減にもつながります。コンポスターなどで堆肥化することも可能で、家庭菜園やガーデニングに利用できます。

#### ごみの分別に迷ったら

##### ごみサクで検索

ごみの分け方や出し方が簡単に検索できる「ごみ分別辞典」。「久慈市 ごみサク」と検索するか、左記のQRコードでアクセスできます。「久慈市ごみ分別ガイドブックダイジェスト版」と合わせて、利用ください。



#### 「指定ごみ袋」制度が始まりました

1月から、市内の家庭から出される、燃えるごみと燃えないごみを対象に「指定ごみ袋」制度が始まりました。3月までは、市販のごみ袋も使用できる移行期間。4月1日以降は、指定ごみ袋以外の袋で出されたごみは、回収されなくなります。

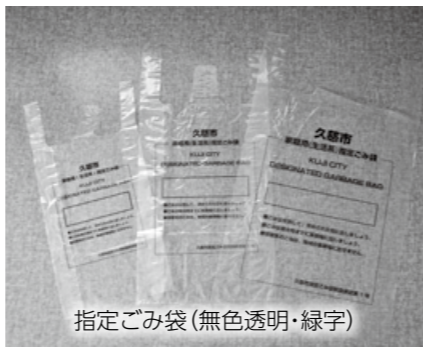
指定ごみ袋の容量は約45リットル、15リットの3種類。燃えるごみ、燃えないごみ共通で使えます。厚さは0.03ミリで、一般的なU形袋タイプ（レジ袋タイプ）。市販の平袋と同様の間口としています。

12月中旬から、市内のスーパーやドラッグストアなどの小売店のほか、市衛生連合会事務局で販売されています。

#### ごみの出し方・分別方法は

##### これまでと同じ

ごみの出し方や分別方法に変更はありません。指定ごみ袋に入れたごみを、各地区の集積場に出してください。資源物は、市販の透明・半透明のごみ袋でも回収します。



指定ごみ袋(無色透明・緑字)

#### 期待される効果

指定ごみ袋を導入することで、ごみの減量化やリサイクル率の向上、ごみ出しマナーの向上などが期待されます。市の平成29年度のリサイクル率は11.2%。県内市町村の中で30位(市の中では最下位)と低い値です。この値を増加させ、ごみを減らすことは、久慈地区最終処分場の延命化や財政負担の軽減にもつながります。

ごみの減量化には、皆さんの協力が不可欠。一人一人ができることは小さく、面倒かもしれませんが、市全体では大きな効果をもたらします。久慈の豊かな環境を次世代につなぐため、皆さんの一手間をお願いします。



澤田 孝夫さん  
小久慈老人クラブ  
日吉会 会長

#### 資源を回収し

##### 老人クラブの収入に

岩瀬張地区の老人クラブが資源物集団回収を始めたのを聞いて、日吉会でも平成23年から回収を始めました。

会員に呼び掛け当初は25人くらいの人数が参加。アルミ缶、スチール缶、新聞紙、雑誌を集め、地区の公園にある小屋で分別しています。

業者が月1回、分別した資源物を回収。種類ごとにキロ数円から数十円で買い取ってくれます。半年ごとに市役所から補助金も入るので、合計すると資源の値段が安くなった今でも、年20万円くらいの収入になっています。そのお金で、回収に参加してくれている人たちで小旅行を楽しんでいます。ごみ処理場や先進地を訪問し、環境問題についての研修もしています。

皆さん年をとったり、資源の値段が下がったりしたことに参加者も減少。今は12、13人で活動しています。地域の大家さんが、立っまま分別できるように、さまざまな道具を制作。人数は減っていますが、時間は短縮されています。大人だけでなく、子どもたちも回収に参加すれば、ごみについて考えるきっかけになるかもしれません。

私たちが子どものころは、ごみの量も少なかった。食料や資源が貴重でしたし、残飯が出ても養豚場で回収してくれました。豊かな生活にはなっただけで、ごみ集積場からあふれるほど、ごみが捨てられています。資源物の回収も大切ですが、ごみを減らす努力をしなければならぬと思います。

#### 資源物集団回収支援事業補助金

市では、地域団体がアルミ缶、スチール缶、新聞紙、雑誌などの資源物の回収量に応じて、補助金を交付しています。事業の実施には団体の登録が必要です。詳しくは問い合わせください。

園生活環境課 ☎ 54-8003